

弓道ながの

第62号

発行：長野県弓道連盟
会長 外蘭公毅
〒399-4117
駒ヶ根市赤穂10214-4
TEL0265(83)5206
編集：県連報
印刷：県成進社

巻頭言

心掛けたい事

長野県弓道連盟副会長 奥山 誠治



平成二十九年
四月より新年度
長野県弓道連盟
の事業がスター
ト致しました。

前副会長の平

野英孝先生より

バトンを引き受け務めることになりました。まだまだその器でないことは承知しておりますが与えられた任務を全うすべく力を尽くして参りたいと思えます。

弓を引き始めて五十年余り、時ばかり長く過ぎ、なかなか思うような弓を引けず苦勞するばかりではありませんが、弓をやめようと思ったことはありません。

私が善光寺道場に入門したのが昭和四十七年六月、ここで昔の善光寺弓道



場を振り返って見たいと思います。入門した頃は偉い先生方が大勢いらっしゃいました。林亮天先生をはじめ、山内成豊先生、塚田八郎先生と範士の先生が三名、小林岩男先生、堀内忠和先生、齋藤節郎先生、宮坂栄太郎先生、桜井耕三先生と教士七段の先生が五名、他に田村真三先生、丸山忠孝先生も見えていました。会員数八十名以上を数えて、夜の稽古も三立位の控え待ちでいた程の大盛況で、朝は朝で塚田八郎先生、宮坂栄太郎先生など七、八名が六時前から七時頃まで稽古をして充実した毎日を送っていました。私などまだまだ駆け出しの参段位でした。親しい話も出来なく、先生たちの話を聞いたり引く姿を見たり、それでも林亮天先生に射を見て頂き指導を受けました。先生はあまり細かい指摘はしな

いで伸び合うことを主に言われませんでした。今思えば未熟な為だったのかも知れません。でもこのような環境の中で過ごした事は今の自分にとって良い経験であったと思っています。当時は体配などほとんど稽古はしませんが、審査が近づくとも審査の為にいました。林亮天先生も大会の時、立射で矢渡をしていました。

現在、例会などを利用して射会前

に矢渡、射会後には優勝チームの納射をして、見学者の人から感想、問題点の指摘などをして技術の向上に役立てています。県弓道連盟から指導者講習会に派遣される機会を得、行射時緊張感を持って引く様に決めていることはもちろんですが、上手に引こう失敗のない様にと考えますが所詮稽古以上の射は引けません。頭で考え心で思い、その動作態度は表情に表れ影響を与えます。それは本人が十分に承知していることではないでしょうか。誰もが審査などでは昇段昇格したいと願う事でしょう。願えば叶うと言われますが弓を続けて居る限りどなたにもチャンスは有ると私は信じています。一生懸命

稽古をすることに尽き、隙を作らず基本に徹し楽な稽古、自分に都合の良い射を引かないことを実践したいものです。一生修行で終わりは有りません。県弓道連盟が益々発展され会員皆様の一層のご活躍のお手伝いが出来ます様に尽力して参りたいと思います。今後とも宜しく願います。

纏まりませんが挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。



退任役員あいさつ

役員退任にあたり

前長野県弓道連盟 副会長

平野 英孝



この度副会長退任にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。振り返ってみますと平成十三年、古澤博会長

より理事を拝命、総務部員として県外審査の取りまとめを担当させて頂きましたのが、県弓連の役員としての始まりでした。

平成十九年、山川茂樹会長より常任理事を拝命、広報部長となり「弓道なごの」をメ切と編集に追われながらも、広報部員の方々と、原稿を快く書いていただいた会員の皆様のご協力をいただき、四半期に一度発行することができました。

平成二十一年からは、競技部長に任命され県弓連主催の競技会を担当、熱気に包まれた会場で活躍する会員の姿は、長野県弓道の将来を期待させてくれるものでした。

平成二十三年、土川俊市会長より副会長を拝命、強化部を担当、北信越国体・本国体にと選手の緊張と気迫のこもった競技に手に汗したことを感動と共に、昨日のこのように思い出しませ

す。平成二十七年からは、外蘭公毅会長より競技担当副会長を拝命、今期評議員会まで務めさせて頂きました。

思えば平成十三年より古澤会長、山川会長、土川会長、外蘭会長と歴代四人の会長先生の温かいご指導を賜りました十六年間は、私にとって大きな宝物となりました。

時代を遡ると、飯山弓道場で弓を引き始めてから五十六年になります。飯山支部長としての十六年と合わせ三十二年間、県弓連の役員に関わらせていただきました。

この長い年月、浅学菲才な私が無事に務めることができましたのも、偉大な多くの先輩方のご指導、多くの同志と「平野がやっているのだから、協力してやろうやー」と無理をしても支えてくださった地元の皆さんの大きな力のお陰と心から感謝しております。

今後は一会員として微力ではありますが、県弓連の更なる発展のためご協力をお誓い申し上げます。退任のご挨拶とさせて頂きたく思います。長い間ありがとうございました。

前長野県弓道連盟 副会長

外山 勇一



二年間、ジュニア部担当の副会長としてお世話になりました。担当の県連行事は六月に実施する中学生大

会だけですが、高体連弓道専門部長として地区大会・県大会、さらに北信越の選抜大会に携わらせていただきました。それらの大会の際は、いつも審判席において大会の進行を見守ってまいりました。それぞれの大会で手に汗握る白熱した試合を間近で見られたことは、自分自身、大きな勉強になりました。とくに印象に残っている試合は、

平成二十七年新人戦県大会個人戦での長野吉田の依田君と長野日大の塩釜君との死闘です。両者12射11中で決勝に進み、その後、射詰。ふたりとも全く外さず22本目で勝敗が決しました。弓というものは正しく引けば中るものであることを改めて認識するとともに、

ふたりの精神力の強靭さに感動しました。その後のふたりの活躍、両校の活躍は周知の通りです。

一方では、早気や癖弓など、射技について未熟な生徒も多数おりました。さらに的中を逸した際、それを顔や態度に表すもの、的中があっても体配が出鱈目なもの。学生の弓は的中至上主義と雖も、正しい射技と正しい体配に立脚した弓を教えるべきものであり、それは各々の指導者の責であり、そのことを自ら直接口にできない、もどかしさを感じたことも多々ありました。

これからのジュニア部の最大の使命は、如何にしたら若者に弓道を継続してもらえるかであります。外蘭会長の年頭の挨拶にありました通り、高校卒業とともに弓を置く生徒が少なくありません。是非それぞれの弓道場に於きまして、高校生の頃から学生を温かく迎え入れていただき、更なる弓の深遠さをご教授いただければ幸いです。

弓道人口の底辺拡大のため、そして正しい弓道の修練のために、今後ともジュニア部の活動に対しご理解とご支援を賜りますようお願いし、退任の挨拶といたします。ありがとうございます。



平成二十九年 錬士研修会

飯伊支部 錬士五段 中村 健二

四月十六日、塩尻市弓道場に於いて標記の研修会が開催されました。講師は宮坂博之先生(教士七段)、大久保まさ子先生(教士六段)が務められ、受講生三十七名の研修会でした。

礼記射義・射法訓の唱和の後、研修生による矢渡が行われました。矢渡の講評では、介添をするにあたっては、動作を間違えないように意識するだけでなく、介添の心得をよく理解して、介添は射手を引き立たせる様に努めるとの指導がありました。

その後、全員が一手行射を行い、講師講評では

- 歩行は後ろ足に注意する事で踵が上からないようにする事。
- 本座から射位に行く時の息合いは一息一足であり、入退場の時とは違うので気を付ける。
- 櫛掛けの際に急いで合わせようとすると態勢が崩れたりするので息合いに合わせて行う事。
- 着装は常に見られているので紋がずれていたりしないよう気を付ける。
- 甲矢乙矢を選別する時は矢を左手に



付けない。左手に付けると選別する前に矢を取っているように見えてしまう。

• 射位で立ち上がる時に捧持した弓が下がる人が多いが、これは弓矢を捧げるようにして立つことで手が下がらないようにする。

• 入場は合わないこともあるが、合わせようとすることが大事で自分勝手にやっつけてはいけない。息合いに合わせて動作をして自分を主としながら



五人で合わせる事。

• 退場する際は、弓礼弓法問答集P20に記載されている通り、大前から四番までは控えの一番の末弭めがけて進み退場する。落ちは後ろに的が一つある場合、的を越すまで下がる事。尚、後ろに二つのがある場合は前に歩行し退場する。

• 男子は立った姿勢の時に両足の間隔を空けるが女子は空けないがこれは何故かという話では、教本に記載されている射を行う態度の中で男子は威儀正しく、質実剛健、従容典雅であること。女子は優雅のうちに、容姿凜然たることとあり、それが男女の立った姿勢の違いに表れているとの事。

以上の点についてのご指導を頂きました。

午後からの射技指導では四人の先生方に指導して頂き、大三での伸び、上体を楽に、妻手の取掛けなどご指導頂きました。

その後、審査に向けての研修では、一次審査の間合いと一つの射礼で分かれ行いました。

閉講式では宮坂先生より「今回の研修会を今後の審査に生かして頑張ってください」とのお言葉を頂き研修会を終了いたしました。

私はこの研修会は初めての参加でしたが、改めて基本の大切さを再認識した研修会でした。ご指導頂いた事を糧に日々精進して参ります。

寄稿

「林亮天先生の教え」

長野支部 錬士五段 荒井 昭彦

今から三十二年程前に、長野市安茂里伊勢宮にありました、「洗心館弓道場」一由龍右衛門先生(林亮天先生の一番弟子)の個人の道場で私が稽古していた頃の話です。

林亮天先生は善光寺の威徳院の住職をしておられ、善光寺弓道会の会員でおられた先生が毎月洗心館の例会の時にはお見えになり、お迎えに行かれないときでも「私はこの道場が大好きなんだよ」とおっしゃり、九十歳の先生はお一人でも善光寺から伊勢宮までバスを乗り継いで来てくださりご指導をいただいております。例会が終わり先生を囲んでの楽しい茶話会の時に、色々お話を聞きました。中々今でも記憶に残っている話です。

林先生が阿波研造先生の道場に稽古に行かれ、阿波先生の前で引く時に先生が弟子の皆に「長野から来た林君だ、皆で応援しろ」と言われ、林先生が会に入った時の弟子の皆がウーと腹の底からの声の応援の中で引き離れができなかった時の話や、天覧試合に出場した時の話では、数日前から調子が悪く悩んだまま射位に進み、最後は無心になり丹田から爆発しかならないと思いき全身全霊で伸び合い離れたら束った話を聞きました。また林先生

の米寿の祝射会の答礼射の際に参加者の方々の視線が気になってしまったことが「自分はまだまだ未熟だ」と言っておられました。

先生の指導では手先の事は言わず、「正しく用意された体型に正しい心が順応し、正しい息合にて正しく致させ、丹田の力を中心として強化充実の末に発射する」事を繰り返して指導くださいました。

私が現在指導するにあたり元となつていた林先生のお書きになった「射道要訣」を皆さんにご紹介したく掲載いたします。最後に先生が九十歳の頃、私の弓(並25kg)を手に取り、軽々肩入れされたのは鮮明に覚えております。



▲林亮天先生 弓道九段拝受 迎米寿記念祝射会

昭和五十三年十一月二十一日

射道要訣

射徳 林 亮 天

射の理想は所謂「正射」の二字に尽きる。その実現のための要訣を左の五項目に分けて略説すべし。曰く、一、正技。二、正心。三、正和。四、正強。五、正気之れ也。凡そ弓道は終始一貫「正しさ」を要し、弓道修業は正に「正しさ」の追求にありと謂ふ可し。

一、正技。

射技の合理的真実の体型即ち正しい五重十字字への真実の追求。

(真) 射行如流水へ。

一、正心。

人心時に正念静慮を欠く。邪心妄念を去り正心を養い以て正射を念ず。

(善) 射裡観徳へ。

一、正和。

正技・正心の正しい絶対調和。

(美) 残身似開花へ。

一、正強。

射の目的の一は身心の正しい強化育成にあり。単なる外形のみの射は偶像に過ぎず。要は丹田を力点として剛毅不屈・倒れて後已むの誠を尽し、全心全霊を傾倒して躍如たる正射の顕現に努める。

一、正気。

気は即ち氣息又は息合いを意味する。人間の諸動作は総て息合いと協応する。射の運行もその強弱緩急何れの場合も息合いと密接に關連協応する。弓射に於ける息合いは丹田を中心とする所謂腹式呼吸法に類す。一挙手、一投足等諸動作は総てこの呼吸に協応して停滯なき時、一一の基本動作は勿論射法八節総て所謂「間」整い前四項目比処に於て一に歸し以て正射となる。されば、この息合いの正しい運行こそ正射実現の中心的要素と謂ふ可し。煩を厭わず此処に射法八節と息合いに就いて略説すべし。

一、足踏み。

身心を整え射位に立ち軽く息を吸いながら左足を踏み出し、吸うた息を軽く吐きながら右足を開く。

二、胴造り。

丹田を中軸とし、深く呼吸して磐石の自然体を整える。

三、弓構い。

「取掛」・「手の内」への息合いは軽く自然に行い、「物見」は軽く息を吸いながら物見を定め、その状態のまま息を元に復す。

四、打起し。

息を吸いながら打起し、限度に至

らば両腕はそのままに、丹田を中
心として、軽く息を元に復するに
協応して、上下左右均等・全体勢
の安定を確める。

五、引分け。

息を吸いながら大三に至り、その
息を丹田に落し納めながら気力を
漸増しつつ、(余分な息は静かに
口より出でて胸は空となる)左右
均等に引き分けて会に至らしむ。

六、会。

息合いと共に気力既に丹田に充満
し之れに対応して五重十文字の体
型既に整う。而も氣息は寸時も停
止する事なく丹田を中心としての
全身全霊の極度の緊張の漸増につ
れて僅かに鼻腔より外部に洩れる。
その間を持満といい、真の詰合い・
真の伸合いが行われる。

七、離れ。

会の運行の末、その極限に於て丹
田の気力を起爆剤として離れが生
まれる。蓋し、その際の体型の変
化は離れに伴う両腕の左右への開
き以外に微動もなく、その際息合
いは気力に応じて全気が放出され
且つ徐々に平生に復する。

八、残身。

右の離れの後半の説明が所謂残心
である。即ち両腕は気力に応じて
左右豪快に開かれた後、気力の平

静化と共に両腕の緊張も徐々に平
静化し、息合いも亦共に平常に復
す。之れ残心に於ける動より静に
返える間の姿なり。次いでその体
勢のまま息を吸い、それを吐きな
がら弓倒しをし、更に息を吸い、
それを吐きながら顔向けを正面へ
直す。



結語

正射を一言にして云えば「正しく用
意された体型に正しい心が順応し、正
しい息合いに正しく一致させ、丹田
の力を中心として強化充実の末に発射
する」行射を謂ふ。但し弓人最高の理
念は無我虚心。不正を超越し、只心の
儘運行に委せて行射し而もそれが寸毫
の誤りなき射となる。是れを名付けて
聖射と為す。

孔子の言「從心所欲不踰矩」
論語為政第二に類す。

亮天 座右銘
以上

正和強聖

弓仲間紹介

豊科高校弓道部 部長

式段 牛越 裕子

私は高校一年生の四月から弓道
を始め、今年で二年半が経ちまし



私に先輩方がたくさん声を掛けてく
れたのがとても嬉しく、心強かった
です。未熟で先輩方にたくさん迷惑
をかけてしまいました。このこと
を通して全員が一つになり、同じ目
標に向かって全力を尽くすというこ
とがとても素晴らしいことだと実感
しました。部長に

なつてからは大変な
ことも多くありまし
たが、そのお陰でた
くさんの人に支えら
れていることに気づ
き、周りの人に感謝
する大切さを知りま
した。

弓道という競技は
想像以上に繊細で、
今思い返しても思い
通りに中らないこと
の方が多かった気が
します。ですが、弓
道を通していろいろ
なことを学び、以前
の私なら信じられな
いような体験をたくさんさせて頂き
ました。もう直ぐ部活動は引退して
しまいますが、私にとって弓道に出
会えたことはとても大きな宝です。

今でも覚えています。

二年生で先輩方と一緒に団体戦
に出場した時は不安ばかりだった

平成二十九年 度 「北信越地区指導者講習会」を受講して

長野支部 教士六段 大久保 まき子

五月十三日(土)・十四日(日)新
潟県彌彦神社弓道場に於いて北信越地
区指導者講習会が開講され長野県から
は六名が参加しました。

事前に提示された「審査委員・審判
委員・講師」公認資格認定制度資料集
の中の、講師と審査委員についての論
文をそれぞれ四つの課題から一項目ず
つを選択して、第一日目受付時に提出
しました。主任講師中塚祥一朗教士八
段と講師川村光良範士八段が紹介され
ご指導を受けます。

主管地連会長の二礼四拍手一礼から
始まりました。主任講師と主管地連会
長からは「今回はいつもと違い、公認
資格認定制度・地方委員資格講習会で
すから地元に戻って正しく
伝えてほしい」のお言葉に
責任の重さを感じました。
矢渡は主任講師、介添は受
講生が務めました。大きな
木立に囲まれた神社の境内
にある静まり返った道場で
聞こえるのは小雨の音のみ
で、弦音の響きに身が引き
締まりました。



目的である「地方委員資格取得」に
関する講習。

「審査委員・審判委員・講師」公認
資格認定制度資料集、教本、副読本を
持参で射場内に集合です。この資料集
に沿って講義が進められました。

主任講師の説明の一つ一つの言葉に
耳を傾け、目は資料の文字を追い、手
は鉛筆を走らせる。講義中は理解し覚
えることに没頭しました。

審判委員講義の途中で、審判委員認
定試験問題が配られ、問題数は25問○
×式、時間は15分間。終了後、講師か
ら出題全問の解説と正解の発表があ
り、各自が答案の採点を行い答案用紙
を提出しました。

平成二十九年 度指導方針

指導者の心得の説明。

- 一、指導者として、自ら至誠と礼節を
体現し真善美をめざすこと。
- 二、指導者の持つ影響力を自覚し、自
身の言動の倫理性について常に注
意を払うこと。
- 三、指導に当たっては、自らが実践躬
行すること。(やってみせる。)
- 四、指導に当たっては、弓道教本及び
副読本に基づき全国的に統一され
た指導を行うこと。

※指導項目については、基本体及

び射法射技の基本(本弰が膝頭に
のつていない人が多い、特に女子
に多い。又弓構えが一番大切。隙
の無い戦う姿勢)・矢羽の取り扱
い・暴力やハラスメントの根絶・
弓道競技規則の改定の周知・審査
規定の改定の周知等説明がありま
した。

主任講師より「ぱっと入った時の印
象、この人は教士としての格があるか、
風格、体から滲み出るものを入退場で
見る。射位に立っている人も風格、人
格いろいろなもの考え方、立ち居振る
舞い、弓を持つてくる目づかいが射品
射格かな。それには一つ一つやるしか
ない。」とお話でした。

講師検定試験(技能)をもって講習

会は修了しました。

最後に主任講師より「北信越はレベ
ルが高い。講師・審判委員・審査委員
の三つを持って県連に帰り後輩を育て
てほしい」とご挨拶がありました。

三種の資格認定をいただきました
が、その中の審判委員の競技規則につ
いて研鑽を積みみたいと思います。今回
受講で得た知識を活用して県弓連のた
めに尽くしてまいります。



平成二十九年 度 北信越地区指導者育成講習会

上小支部 鎌士六段 奥山 雄三

五月十三日から二日間、石川県小松市で開催されました。今年度から全日本弓道連盟の公認資格認定制度として位置付けされる講習会になりました。今回は、範士八段 飯島正大先生、範士八段 近藤峯英先生のお二人をお迎えしました。

講習会は「地方委員資格取得」に関する講習だったので座学中心でした。資料集を中心に説明を頂きましたが、特筆すべき点は、P66に遠近競争の運行と審判の方法が細かく説明され、P92に審判委員認定試験の学科問題が公開されています。審査についての話が飯島先生からありましたが、これは月刊弓道一月号(創刊八〇〇号)に投稿され、その中の一文にもありますが、「審査は公明正大、公平でなくてはならない。そのために、心身共に健康で、着装に気をつけ、自らの審査眼に責任をもって頂きたい。」とその場でもおっしゃっていました。資料集のP78には、平成二十九年度の指導方針が掲載されています。特に問題となるような点を抜粋して説明をして頂きました。(指導項目二:矢羽の取扱いと矢羽の使用に関する準則の徹底を図る)に関し

ては、もう少しで決着するという言葉を頂きましたが、これは弓道人として取扱いや使用に関しては、規則にのっとっていかなければいけないと痛感しています。また、(指導項目三:あらゆる暴力やハラメントの根絶を図る)に関しては、全弓連への報告が多いと嘆いてはいましたが、匿名であることも多いとおっしゃっていたので、本当であれば実名で訴えてほしいと提言していました。また、「武道は学べる時に(学ぶべきことを)学ばないと身につかない。」「この時(今)伸びないでいつ伸びる!」「昔はこうだったではなく、今がどうかをしっかりと確認をする。」など力強くはつきりとおっしゃっていました。飯島先生を中心に座学は進みましたが、近藤先生は時折、厳しくも温かい言葉で受講生全員に活を入れていました。

先生方の印象的な言葉は、「飯島先生・離れは伸びがないと駄目。残心(身)↓残伸、縦の伸びが重要。」「近藤先生・駄目なもの駄目。駄目なことをやって当ても意味がない。五重十文字(三重十文字)は絶対に崩さない。稽古の仕方が甘い。日頃が大切。」などです。飯島先生が縦線の重要性を述べた時に、

「射法八節は、…打起し、押開き…(百年後)になるので、私の代わりに確認をして下さい。」と笑顔で話を終えました。

最後に、今回感じたことは、積極的に質問等をしなければいけないと言うことです。縦線の話も質問をしたからこそ聞くことができました。また、夜の懇親会は、先生の技の真髓を引き出すチャンスなので、講習会では話さない秘技を聞き出す努力が大切だと思いました。夜の部での射技指導が、先生方の講師演武に繋がったと感じています。先生方は一切乱れない間を体現し、束中をしましたが、お二人の姿はまさに実践躬行、正射必中でした。歩き方、弦音、伸びる残心(身)は一生忘れないと思います。最後に先生から頂いた言葉で締めくくると、「何を目指して、何を得られるかは自分次第。講習会で学んだことを吸収して実践しなければ全く意味がない。」この言葉を励みに、これからの稽古に励んでいきたいです。



弓道合宿予約随時受付中!

野辺山洗心弓道場

- 近的道場 18人立1ヶ所 (床暖房完備)
- 12人立2ヶ所
- 遠的道場 1ヶ所

帝産ロツヂ

〒384-1305
 長野県南佐久郡南牧村野辺山1003
 HP : <http://www.teisanlodge.com/>
 ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861

私と弓道

長野支部 五段 甘利 岩男

道場にひとり立ち、安土の的に向かう。

静寂な中にも何か張りつめた気が、身を引き締める。

スポーツとして「中てる」楽しさを求めて始めた心算の弓道が、礼儀作法を基礎とし、心身鍛錬の手段として、今更ながらこれほど奥の深いものであることを痛感している昨今です。

十五間先の不動の的が、私の心を動かす。

一射一射が違う、相手は的ではなく自分自身の心だと思ってくる。

この齢になって「上手い下手」の技量に関係なく的の前に立ち心静かに弓を引くこの瞬間は、射手として自分だけの時間であり心豊かになる。

行射において、中りにとらわれ、射技がおろそかになる悪癖がなかなか治らな



い、たぶん治らないと思う。

私の所属する、長野運動公園弓道クラブは、現在約百名の会員で構成されています。

毎週火曜日、木曜日を定例の指導・練習日と設定し、また、毎月の月例射会、年二回の遠的射会がクラブの年間事業として実施されています。

クラブの会員として、また指導の師としての宮澤廣、大久保秀雄両範士の厳しい中にも丁寧な指導を頂いたことが、私の弓道人の原点だと思っています。

クラブの多くの先輩、仲間のみなさんとの出会いも、弓の楽しみを教えていただいたと思っています。道場通いは、まだまだ続けたいと思います。

大会結果

御奉射大会

○平成29年3月17日(金) 穂高神社弓道場

参加人数…高校117名、一般69名、合計186名

■個人の部(8射)

▲高校

- 1位 黒木 夏雲(大町岳陽C)
- 2位 廣瀬 豪則(美須々男子B)
- 3位 中島 優衣(松商C)
- 4位 山田 樹(松商A)
- 5位 深澤 龍平(松商A)

▲一般

- 1位 小池 君男(善光寺)
- 2位 樋口 治(池田B)
- 3位 伊藤 公二(塩尻)
- 4位 竹村 茂明(混合B)
- 5位 関 正幸(チームS.T.Y)

■団体の部(24射)

▲高校

- 1位 美須々男子B(廣瀬豪則、屋敷圭太、古瀬真弥)
- 2位 松商学園C(西堀彩夏、神林里菜、中島優衣)
- 3位 松商学園A(山田樹、塚田啓俊士、深澤龍平)

▲一般

- 1位 善光寺(荒井孝若、笠井信夫、小池君男)
- 2位 桜組(荒木義博、小玉正子、小池正夫)
- 3位 池田B(樋口治、吉野恒夫、松井幸彦)

第32回塩尻市弓道大会

○平成29年3月19日(日) 塩尻市弓道場

参加人数…中学10名、高校239名、一般34名、合計283名

■個人の部

- 1位 廣瀬 豪則(美須々A)
- 2位 古川 侑生(松本蟻ヶ崎A)
- 3位 籠田 真輝(志学館E)
- 4位 小穴奈津希(美須々B)
- 5位 白木 純也(美須々A)

■団体の部

- 1位 松本蟻ヶ崎A(胡桃沢尚人、坂本紅葉、古川侑生)
- 2位 木曾青峰A(水澤温太、原浩平、田尻春満)
- 3位 木曾青峰B(早川匠、上原慎司、原聖也)

第72回国民体育大会弓道競技 長野県二次選考会通過選手

○平成29年4月1日(土)、2日(日)

松本市弓道場、須坂市弓道場

▲少年男子9名

- 川島 陸人(飯田風越)
- 熊谷 駿佑(飯田風越)
- 小口 琉矢(岡谷工業)
- 矢澤 直生(諏訪二葉)
- 奥原 竜大(都市大学塩尻)

▲少年女子9名

- 黒崎 基生(中野西)
- 岡田 卓也(長野日大)
- 北村 竜也(長野吉田)
- 篠澤 知英(野沢北)
- 片桐 玲果(赤穂)
- 松下 瑞季(飯田風越)
- 北澤 侑佳(伊那西)

- 白石 玲奈(岩村田)
- 小林彩季帆(上田東)
- 井堀 希唯(長野日大)
- 春原 か乃(長野吉田)
- 清水理佳子(松商学園)
- 西堀 彩夏(松商学園)

▲成年男子8名

- 藤森千友貴(上小)
- 小田切祐典(小諸)
- 清水 北登(佐久)
- 市川 隆光(諏訪)
- 岩原 祐貴(諏訪)
- 蟹澤 史弥(上伊那)
- 岩村 拓生(飯伊)
- 平澤 敏弘(飯伊)

▲成年女子8名

- 藤澤 敏恵(長野)
- 竹花 葵(上小)
- 柳澤 真純(上小)
- 吉江 美佳(松本)
- 内山 寿美(諏訪)
- 川村 綾美(諏訪)
- 高坂 彩水(諏訪)
- 井原 寿恵(飯伊)

長野県勤労者弓道選手権大会 兼 第64回全日本勤労者弓道選手権大会長野県予選会

○平成29年4月2日(日) 塩尻市営弓道場

■団体の部

- 1位 セイコーエプソンA(内山喜照)
- 2位 JA長野厚生連A(宮澤久美子)
- 3位 上田市役所(山口泰、益満行人、高木涼子)

■個人の部

- 1位 横澤 詩織(長野県庁)

第39回善光寺弓道大会

○平成29年4月16日(日) 善光寺弓道場

参加人数…一般119名

■個人の部

- 1位 茂山 裕貴(信州大学A)
- 2位 伊藤 梓(春らんまん)
- 3位 小越 一寛(信州大学B)
- 4位 伊藤 益瑠(信州大学C)
- 5位 中澤 優衣(信州大学B)

■団体の部

- 1位 信州大学A(小林美妃、石原慎也)
- 2位 信州大学B(寺島未歩、野見山侑也)
- 3位 信州大学C(奈良本龍也、下曾小川拓、帯刀菜奈子、伊藤益瑠)

第26回県下弓道駒ヶ根大会

○平成29年4月16日(日) 駒ヶ根市弓道場

参加人数…高校143名、一般55名、合計198名

■個人の部(8射)

- 1位 新井 雄大(飯田OIDE長姫B)
- 2位 小口 琉矢(岡工A)
- 3位 平澤 歩務(伊那北A)
- 4位 木下 瑠星(駒工A)
- 5位 白鳥 衛(駒工E)

▲高校女子

- 1位 長谷川 愛(赤穂C)
- 2位 清水 春菜(赤穂C)
- 3位 湯澤奈緒子(伊那北B)
- 4位 新井 未音(風越A)
- 5位 松下 瑞季(風越C)

■一般団体の部(12射)

- 1位 伊那北B(塩澤亮、金田直之、湯澤奈緒子)
- 2位 赤穂C(長谷川愛、清水春菜、齋藤和)
- 3位 混成C(松村和重、増澤駿、池ヶ谷豊)

平成29年度ねりんピック全国大会予選会

○平成29年4月23日(日) 駒ヶ根市弓道場

参加人数…一般29名

■個人の部(12射)

- 1位 北原 修(上伊那支部)
- 2位 持田 武二(佐久支部)
- 3位 小池 君男(長野支部)

▲ねりんピック全国大会 長野県代表選手

- 選手 持田 武二(佐久支部)
- 選手 小池 君男(長野支部)
- 選手 白井 昌美(佐久支部)
- 選手 原 富子(飯伊支部)
- 選手 平澤 孝一(上伊那支部)
- 補欠 石井 隆子(上小支部)
- 補欠 湯澤 幸司(上伊那支部)

第75回長野県護国神社例大祭 奉納県下弓道大会

○平成29年4月29日(土・祝)

長野県護国神社弓道場

参加人数…高校119名、一般78名、合計197名

■個人の部(8射)

- 1位 奥田 夏希(松商学園男子A)
- 2位 竹内 大和(諏訪二葉A)
- 3位 小穴奈津希(美須々女子A)
- 4位 小林彩季帆(上田東女子)

▲一般

- 5位 鳥崎 優也(志学館男子)
- 1位 水上 和(信州大学B)
- 2位 伊藤 公二(チーム事業部)
- 3位 芦部 洋輔(流離)
- 4位 小野 友樹(信州大学D)
- 5位 保木野克海(信州大学A)

▲高校

- 1位 上田東女子(原田星南、佐藤里音、小林彩季帆)
- 2位 美須々男子A(廣瀬豪則、白木純也、犬飼雄裕)
- 3位 穂高商業A(横内陸、福嶋瞭典、後藤敏貴)

▲一般

- 1位 信州大学B(水野りん、山口将平、水上和)
- 2位 信州大学D(荒井綾音、赤沼春菜、小野友樹)
- 3位 信州大学A(関口直人、保木野克海、齋藤利仁)

第61回北信弓道大会

○平成29年4月29日(土・祝) 飯山市弓道場

参加人数…高校男子257名、高校女子283名、中学男子9名、中学女子11名、一般男子53名、一般女子54名、合計667名

■団体の部(30射)

- 1位 長野吉田C(佐藤光、宮澤達也、萩原篤志、井出圭祐、本澤隼人)
- 2位 須坂B(中野恵志、正木港、山崎柘平、常田佳裕、大河原弘貴)
- 3位 須坂創成A(望月也雅、山口拓郎、小黑拓海、佐藤一昭、坂口遼)

▲高校女子

- 1位 長野日大B(松澤那奈、井堀希唯、平井花音、吉岡愛珠、黒石あこ) 20中
- 2位 長野西A(水本奏、増田記子、宮下優衣、小林陽南子、山田佳苗) 19中
- 3位 長野吉田B(大石ひなの、中島杏歌、木下しおん、宮澤萌、雨宮陽菜) 19中

■個人の部(6射)

- ▲中学男子
 - 1位 宮澤 智哉(長野日大)
 - 2位 笠井 省吾(須坂弓道会)
 - 3位 藤田慶一郎(小諸東)
- ▲中学女子
 - 1位 峯村 桃子(長野日大)
 - 2位 恵久 瑠美(長野日大)
 - 3位 田村 実鈴(長野日大)

▲高校男子

- 1位 筒井 悠貴(中野立志館A)
- 2位 宮澤 達也(長野吉田C)
- 3位 荒川 佑太(屋代B)

▲一般男子

- 1位 大井 峯幸(佐久)
- 2位 上村 茂雄(六日町)
- 3位 村松 和彦(上小)
- 4位 土屋 義雄(中高)
- 5位 猪原 誠二(中高)

▲一般女子

- 1位 宮島さおり(長野)
- 2位 宮島 苑子(上小)
- 3位 三田 千恵(須高)
- 4位 窪田 和恵(大北)
- 5位 藤沢 敏恵(長野)

第66回 住吉大社全国弓道大会

- 平成29年5月1日(月) 住吉大社特設遠的射場
- 一般男子団体の部(1m霞的 12射)
 - 1位 長野県志村仁、亀岡英司、岡本暁徳 [長野県在住、所属富山県] 11中
 - 2位 長野県清水北登、小田切祐典、市川隆光 11中
 - 3位 奈良県 11中



▲第66回住吉大社全国弓道大会 優勝チーム

第44回 佐久鯉祭り弓道大会

- 平成29年5月5日(日) 駒場公園弓道場
- 参加人数・中学6名、高校85名、一般111名 合計202名
- 個人の部(8射)
 - ▲中学
 - 1位 篠原 こと(佐久支部)
 - ▲一般
 - 1位 小田切祐典(小諸支部)
 - 2位 藤澤 敏恵(長野支部)
 - 3位 蟹澤 史弥(上伊那支部)
 - 4位 依田 優太(小諸支部)

第68回 全日本男子弓道選手権大会・第50回 全日本女子弓道選手権大会長野県予選会

- 平成29年5月21日(日) 松本市弓道場
- 参加人数・男子32名、女子16名
- 北信越錬成大会県代表選手
 - ▲男子
 - 1位 宮坂 博之(諏訪)
 - 2位 平澤 敏弘(飯伊)
 - 3位 志村 仁(諏訪)
 - 4位 北原 修(上伊那)
 - 5位 大口 晴男(飯山)
 - ▲女子
 - 1位 久保田智恵(長野)
 - 2位 中村 美穂(諏訪)
 - 3位 牧野ふみ江(南佐久)
 - 4位 松下はるみ(長野)
 - 5位 窪田 和恵(大北)

昇段昇格者

▽「東海地区」臨時中央審査会
 ▲六段の部平成29年5月21日
 原 富子(飯伊支部)

訃報のお知らせ(敬称略)

長野県弓道連盟 上伊那支部
 五段 堀内 孝(88歳)
 平成29年4月6日(木)
 ご逝去されました。
 ここに謹んで哀悼の意を表し、
 お知らせ申し上げます。

弓道なご

道場の床というのは、体配の練習、あるいは審査と、ある意味一番長く接する？ところなので、表面状態は結構気にされることが多いのではないだろうか。

現代の板間は、学校の体育館を見てもわかるように、樹脂材でコーティングされている。この樹脂材、スポーツをする上では滑りすぎても滑らなさすぎても危ない。

適度な滑りが重要なわけで、足さばさが下手な自分には死活問題である。こういう樹脂材はウレタン系のものが使われているが、最近は適度な滑りやすさのものが売られている。塗って乾けばおしまい。便利な世の中だ。

そう考えると、何も塗ってないお寺の板間は綿足袋でも適度な滑りである。長年の修行で磨かれてきた天然の床というのは、人手だけでよい感じになっている。長い期間の錬成が重要なんだなあと考えさせられる。

上伊那支部 手塚信一郎